

特別講演会



「前田利常と古九谷」

『古九谷』存亡の危機に迫る！

鍵を握る切支丹マーク

ご存じですか？
『古九谷』という存在が、消えようとしています。

有田には古九谷の素地が作られた古窯があります。数年前、この窯の隣の遺跡から大量の古九谷酷似の破片が発見されました。

やはり、古九谷は有田だったのでしょうか？でも、ちょっと待ってください。
『古九谷』が盛んに作られていた頃、加賀では前田利常が『古九谷』という焼物を必要としていました。しかし、これは禁教令下、隠密裏に作られなければなりませんでした。同じ頃、有田でも同じ技術を持つ人々により、古九谷と酷似のものが作られていました。こちらも実は、隠密裏でなければなりませんでした。

これらは、柿右衛門が色絵を日本で初めて開発する直前のお話です。

奇しくも、有田や加賀で、それらの焼き物全てが秘密にされなければならなかつたは何故か？そのキーワードが有田では「貿易」、加賀では「キリストンマーク」でした。

華麗な古九谷の平鉢には、陰に陽にキリストンマークが描きこまれています。もとにした中国の原画にそっくりな中に、原画にはない十字架を描きこんだ古九谷もあります。これは、意図的に切支丹マークを描きこんだ証拠と言えましょう。全てにわたって、巧妙です。

今回の講演会ではこれらをご紹介するとともに、利常の意図を偲びたいと思います。

講演者 孫崎紀子(noriko magasaki)

1948年、小松で生まれる。小松高校、金沢大学薬学部卒業。

同医学部付属がん研究所助手を経て、1971年に結婚後、外交官である夫とともに、ロンドン、モスクワ、ボストン、バグダード、オタワ、タシケント、テヘランに住む。

「マンナ」「ムミヨヒウズベク語」「日本語ヒウズベク語の比較」「舍衛女のうた」等のエッセイ・論文がある。

2014年から上智大学山岡三治教授「文化考証学特講」(文学研究科)の講師を務める。

2016年出版『かぐや姫誕生の謎』現代書館



講演者 武腰 潤(jyun takegoshi)

1948年、石川県寺井町に生まれる。

(九谷焼の名窯である泰山窯の三代泰山の長男)

小松高校、金沢美術工芸大学卒業(日本画、北出不二雄に師事)

1974年、日展初出品入選

以後陶芸家として活躍、色絵は品格高く、現代九谷を代表する作家として国際的にも高い評価を得ている。

・泰山窯4代窯元

・日本工芸会正会員、陶芸部会幹事

・石川県指定無形文化財保持団体「九谷焼技術保存会」副会長

・日本陶磁協会九谷焼後援会会長

・石川県陶芸協会常任理事

・石川県九谷焼美術館館長



※一九谷その先に—
武腰 潤 作陶展
会期 2017年9月20日(水)
～26日(火)
会場 日本橋三越本店 本館6階
美術特選画廊
最終日は午後5時閉場

特別講演会日時：平成29年9月24日(日) 14:00～16:30

場所：日本橋公会堂 第4洋室 中央区日本橋蛎殻町1-31-1

講演スケジュール

1. 開会挨拶……………鈴木 康夫 関東小松同窓会会長

2. 「前田利常と古九谷」- 鍵を握る切支丹マーク…………孫崎 紀子氏

14:00～16:00

3. 講評と補足……………武腰 潤氏

16:00～16:30

4. 閉会

講演会参加ご希望の方は下記へメールまたは電話でご連絡ください。

長崎 mail:f-naga15@jcom.zaq.ne.jp 携帯電話:080-1163-8365

会場の都合で申し訳ありませんが先着60名様までといたします。

会費:2000円(1名) 当日徴収いたします。

※日本橋公会堂へのアクセス

■東京メトロ 半蔵門線「水天宮前」駅
6番出口から徒歩2分
日比谷線「人形町」駅
A2出口から徒歩5分

東西線「茅場町」駅

4-a出口から徒歩10分

■都営地下鉄 浅草線「人形町」駅
A3・A5番出口から徒歩7分